

| 科目名 | 農業機械（講義） | | 担当教員 | 秋葉 勝矢 | | 実務経験のある教員等による授業科目 |
|-------------------------------|--|---|------------------------------------|-------------------|----|-------------------|
| 実務経験のある教員等による授業科目（実務経験の概要） | この授業は大型特殊自動車免許・小型建設機械・刈払い機の資格を有し、作業機械を取り扱う実務経験を生かして実施する授業科目である。 | | | | | |
| 対象科・コース | アグリビジネス科 全コース | | 配当年次 | 1年 | 前期 | 時間(単位)数 30(2) |
| 科目区分 | 専門分野 | 農業機械 | 関連資格等 | 農業技術検定2・3級、各種機械免許 | | |
| 授業のキーワード | 機械化、内燃機関、馬力、乗用、歩行、安全、保安部品、燃油、潤滑油、エネルギー、省力化、維持費、廃棄、修理、耕耘、耕起、整地、畝立て、定植、防除、収穫、複合環境制御、ICT,GAP、スマート農業 | | | | | |
| 授業概要（目的・ねらい） | 身近な農業機械への理解を深めることで、より安全な農作業の在り方を習得し、各種作業免許取得意欲を高める。 | | | | | |
| 学生が達成すべき目標（行動目標） | (1)機械の構造を理解できる。 (2)安全操作を説明できる。 (3)適切な作業機を選ぶことができる。 (4)燃油の違いについて説明できる。 (5)機械を実際に操作できる。 | | | | | |
| ディプロマポリシーと本科目の関連 | (1)食物の生産から消費まで、実践的な理論を理解し、技術を身につけている。 | | | | | |
| 授業計画 | | | | | | |
| 回 | テーマ | | 授業内容 | | | |
| 1 | 農業と農業機械Ⅰ（機械化の歴史） | | 機械化の歴史は農耕の歴史。その発展について学ぶ。 | | | |
| 2 | 農業と農業機械Ⅱ（機械と安全） | | より安全な機械の操作方法などについて学ぶ。 | | | |
| 3 | トラクタの構造と操作Ⅰ（乗用型） | | 省力化しつつ大規模面積栽培に必須の乗用型機械について学ぶ。 | | | |
| 4 | トラクタの構造と操作Ⅱ（歩行型） | | 規模に関わらず小回りが利き、様々な特徴を持つ歩行型機械について学ぶ。 | | | |
| 5 | 燃油・潤滑油 | | 機械を動かす油について学ぶ。 | | | |
| 6 | 農業生産とエネルギー | | 農業生産に関わる様々なエネルギーを発生させる機械について学ぶ。 | | | |
| 7 | 内燃機関 | | 様々な内燃機関の工程と性能について学ぶ。 | | | |
| 8 | 作業機の構造と利用Ⅰ（耕耘～播種） | | 施肥、耕す、種をまくなどの機械について学ぶ。 | | | |
| 9 | 作業機の構造と利用Ⅱ（定植～収穫） | | 定植、防除、収穫に関する機械について学ぶ。 | | | |
| 10 | 作業機の構造と利用Ⅲ（環境調節機器） | | 施設内環境の複合調節について学ぶ。 | | | |
| 11 | 作業機の構造と利用Ⅳ（その他） | | ICT,IoTなどスマート農業の展開に係る機械について学ぶ。 | | | |
| 12 | 養液栽培 | | 水耕・固形培地耕・噴霧耕など、養液栽培の分類と考え方について学ぶ。 | | | |
| 13 | 農作業と安全 | | 農作業の安全とGAPについて学ぶ。 | | | |
| 14 | 海外の農業 | | 海外農業の機械事情について学ぶ。 | | | |
| 15 | 纏め | | 今後の農業機械の在り方や、自らの機械化体系の考え方について学ぶ。 | | | |
| 授業準備（予習・復習）の具体的な内容及び、それに必要な時間 | <p>【予習】 実習で見かける機械を良く眺めてみましょう。</p> <p>【復習】 授業で実施した内容について、ノートやプリントの該当箇所を読み、授業で強調した部分を中心に復習する。継続して行い、授業で学んだことはその日のうちに確認しましょう。</p> | | | | | |
| 成績評価 | 方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験（70%） <input type="checkbox"/> 実技試験（%） <input type="checkbox"/> 実習・演習評価（%） <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト（20%） <input checked="" type="checkbox"/> 平常点（10%） <input type="checkbox"/> レポート（%） <input type="checkbox"/> その他（%） | | | | |
| | 基準・備考 | 学生便覧 学則、成績考査規程に準拠して評価する。一読すること。 | | | | |
| 使用教材 | 教科書 | | | | | |
| | 参考書等 | 新版 農業気化器の構造と利用 藍 房和著 農文協 | | | | |
| 教員からのアドバイス・備考 | 教室内講義のみではなく、現場講義もあります。 | | | | | |

| 科目名 | 畜産（講義） | 担当教員 | 高田 良三 | | | 実務経験のある教員等による授業科目 |
|-------------------------------|---|---|-------|----|---------|-------------------|
| 実務経験のある教員等による授業科目（実務経験の概要） | 農林水産省の研究機関である畜産試験場（その後組織改編で畜産草地研究所、九州農業試験場）で畜産に関する試験研究および農業現場に対応した業務へ従事した実務経験を持つ教員がその実務経験を生かして実施する授業科目である。 | | | | | |
| 対象科・コース | アグリビジネス科 全コース | 配当年次 | 1年 | 前期 | 時間(単位)数 | 30(2) |
| 科目区分 | 専門分野 | 畜産 | 関連資格等 | | | |
| 授業のキーワード | 動物生産、乳牛、肉牛、豚、鶏、遺伝育種、繁殖、栄養、飼料、生理、家畜環境、動物福祉 | | | | | |
| 授業概要（目的・ねらい） | 畜産は動物性タンパク質の供給が主目的である。そこで、畜産の全体像を理解することを目的として、遺伝育種、繁殖、栄養、飼料、生理、家畜環境等の専門科目の概略が説明できるようになることをねらいとする。 | | | | | |
| 学生が達成すべき目標（行動目標） | (1) 家畜遺伝育種・繁殖について、その概略を説明することができる。 (2) 家畜栄養生理・飼料について、その概略を説明することができる。 (3) 家畜環境・動物福祉について、その概略を説明することができる。 (4) これらのことを総合して学び、畜産の全体像がもつ意義を理解し、説明することができる。 | | | | | |
| ディプロマポリシーと本科目の関連 | (1) 食物の生産から消費まで、実践的な理論を理解し、技術を身に着けている。 (2) 幅広い視野を持ち、国内外の多くの人と協力して問題を解決できる。 (3) 発展し続けていく農と食の融合的・高度化に積極的に寄与できる。 | | | | | |
| 授業計画 | | | | | | |
| 回 | テーマ | 授業内容 | | | | |
| 1 | 畜産とは？ | 畜産の歴史とその概略を学ぶ。 | | | | |
| 2 | 遺伝・育種1 | 乳牛・肉牛の遺伝育種を学ぶ。 | | | | |
| 3 | 遺伝・育種2 | 豚・鶏の遺伝・育種を学ぶ。 | | | | |
| 4 | 繁殖1 | 乳牛・肉牛の繁殖を学ぶ。 | | | | |
| 5 | 繁殖2 | 豚・鶏の繁殖を学ぶ。 | | | | |
| 6 | 栄養生理1 | 乳牛の栄養生理を学ぶ。 | | | | |
| 7 | 栄養生理2 | 肉牛の栄養生理を学ぶ。 | | | | |
| 8 | 栄養生理3 | 豚の栄養生理を学ぶ。 | | | | |
| 9 | 栄養生理4 | 鶏の栄養生理を学ぶ。 | | | | |
| 10 | 飼料1 | 乳牛・肉牛の飼料および飼料原料を学ぶ。 | | | | |
| 11 | 飼料2 | 豚・鶏の飼料および飼料原料を学ぶ。 | | | | |
| 12 | 家畜環境1 | 乳牛・肉牛の環境生理を学ぶ。 | | | | |
| 13 | 家畜環境2 | 豚・鶏の環境生理を学ぶ。 | | | | |
| 14 | 家畜動物福祉 | 家畜動物福祉の現状と今後の方向性を学ぶ。 | | | | |
| 15 | まとめと解説 | 講義全体をまとめて解説する。 | | | | |
| 授業準備（予習・復習）の具体的な内容及び、それに必要な時間 | 【予習】 | 各回のシラバス内容を読み、インターネット等を通じてその概略を把握する | | | | |
| | 【復習】 | 各回の講義内容を自分自身の言葉で理解し、取りまとめる。不明な点があった場合には次回の講義で質問する | | | | |
| 成績評価 | 方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験（60％） <input type="checkbox"/> 実技試験（％） <input type="checkbox"/> 実習・演習評価（％） <input type="checkbox"/> 小テスト（％） <input checked="" type="checkbox"/> 平常点（40％） <input type="checkbox"/> レポート（％） <input type="checkbox"/> その他（％） | | | | |
| | 基準・備考 | 定期試験および日ごろの学習態度を総合して成績評価をする。 | | | | |
| 使用教材 | 教科書 | 必要に応じて資料を配布する | | | | |
| | 参考書等 | 畜産（全国農業改良普及協会） | | | | |
| 教員からのアドバイス・備考 | 動物(家畜)に興味をもつこと・畜産に関する様々な情報を積極的に受け止める | | | | | |

| 科目名 | 農業生産・機械実習1 (実習) | | 担当教員 | 秋葉 勝矢、鈴木 一広 他 | | | 実務経験のある教員等による授業科目 |
|-------------------------------|--|--|--|-----------------------------|-----|---------|-------------------|
| 実務経験のある教員等による授業科目(実務経験の概要) | 肥料メーカーにおいて、製造・販売及び利用の実務経験を持つ教員がその実務経験を生かして実施する授業科目である。 | | | | | | |
| 対象科・コース | アグリビジネス科 | アグリビジネス、国際農業コース | 配当年次 | 1年 | 前後期 | 時間(単位)数 | 180 (4) |
| 科目区分 | 専門分野 | 作物・園芸実習 | 関連資格等 | 自動刈払機、小型車両建設機械、フォークリフトなど作業系 | | | |
| 授業のキーワード | 燃油、オイル、播種、覆土、鉢上げ、鉢ずらし、堆肥、施肥、耕耘、畝立て、マルチ張り、支柱立て、ネット、目合、株間、条間、移植、定植、中耕、除草、整枝、誘引、摘葉、摘果、摘花、摘蕾、ホルモン処理、追肥、収穫適期、等級選別、階級選別、PE、PP、出荷箱、入目、量目、PVC、PO、予鈴、加温、保温、遮光、乾燥、キュアリング、法律(PL、JAS、景品等表示、農薬取締、肥料取締 など) | | | | | | |
| 授業概要(目的・ねらい) | この授業は大型特殊自動車免許・小型建設機械・刈払い機の資格を有し、作業機械を取り扱う実務経験のある教員が担当し、専門科目で修得する知識を発展させる実習科目でもある。農業生産の過程における各種作業の体験を通じて、農業生産の仕組み・技術についての基礎修得に必要な実習を行う。下記に挙げる主たるテーマ他を天候・時期などに合わせ、水田、野菜(施設、露地、有機、企業)、果樹の計6部門にて平均的に体験実習する。 | | | | | | |
| 学生が達成すべき目標(行動目標) | (1)水稲、畑作物、果樹、野菜栽培等の概要を説明できる。 (2)自ら説明した栽培等の概要について実践できる。 (3)安全に農作業を実践できる。 (4)農業生産における課題の解決方法を考えることが出来る。 (5)農業機械の操作が出来る。 | | | | | | |
| ディプロマポリシーと本科目の関連 | (1)食物の生産から消費まで、実践的な理論を理解し、技術を身につけている。 (2)幅広い視野を持ち、国内外の多くの人と協力して問題を解決できる。 (3)発展し続けてゆく農と食の融合的な高度化に積極的に寄与できる。 | | | | | | |
| 授業計画 | | | | | | | |
| 回 | テーマ | | 授業内容 | | | | |
| 1 | 機械操作 | | 歩行型農業機械(管理機など)、草刈機の取扱いについて実習する。 | | | | |
| 2 | 機械整備 | | 機械油交換、日常メンテナンスなどについて実習する。 | | | | |
| 3 | 肥料の種類と計算、施肥、散布 | | 肥料の種類を知り、施肥量の計算、散布方法など実習する。 | | | | |
| 4 | 播種・育苗管理 | | 播種方法や、播種箱、トレイ等の使い方などを学び、播種後の管理や、苗の管理手法(灌水など)について実習をする。 | | | | |
| 5 | 定植準備・定植(移植) | | 畝立て、マルチ張りなどの定植準備や、苗の移植などを実習する。 | | | | |
| 6 | 栽培管理(野菜) | | 中耕、除草、追肥など、栽培中期の管理作業について実習する。 | | | | |
| 7 | 栽培管理(野菜) | | 整枝、摘葉などについて実習する。 | | | | |
| 8 | 栽培管理(果樹) | | 摘蕾、摘花、摘果、ホルモン処理、房作りなど収穫に値する果実つくりについて実習する。 | | | | |
| 9 | 栽培管理(果樹) | | 多目的防災網の展張、剪定枝片付けなどを通じ、物理的な防除手法を実習する。 | | | | |
| 10 | 栽培管理(水田) | | 播種、田植え、畦畔管理、稲刈り、乾燥調整、粃摺りに至る一連の水田作業について実習する。 | | | | |
| 11 | 栽培管理(水田) | | 冷蔵貯蔵された玄米の精白、小分け、表示など米穀の出荷に係る一連の実習を行う。 | | | | |
| 12 | 農薬の使用 | | 希釈、散布時期、場所、回数、散布時の服装、使用後の機械洗浄など、安全に配慮した農薬散布方法について学ぶ。 | | | | |
| 13 | 収穫・調整・出荷 | | 出荷規格に準じた収穫手法と包装、並びに出荷に向けた輸送方法などについて実習する。 | | | | |
| 14 | 片付け・整理 | | 残渣、支柱、マルチなどの他、圃場・倉庫の清掃を通じ、GAP的管理を学ぶ。 | | | | |
| 15 | 総合 | | 一連の農作業を体系的に実習し、卒業後の就職・就農先探しにつなげる。 | | | | |
| 授業準備(予習・復習)の具体的な内容及び、それに必要な時間 | 【予習】 農作業初心者を想定し指導するので、特に予習は必要としない。 【復習】 各回の実習内容でわからないことがあれば、次回の実習までに各担当教員に質問をするなど、早めの解決を心掛けること。 | | | | | | |
| 成績評価 | 方法 | □定期試験(%) □実技試験(%) ■実習・演習評価(30 %) □小テスト(%) ■平常点 (40 %) ■レポート (30 %) □その他(%) | | | | | |
| | 基準・備考 | 学生便覧 学則、成績考査規程に準拠して評価する。一読すること。 | | | | | |
| 使用教材 | 教科書 | 特に指定しない | | | | | |
| | 参考書等 | | | | | | |
| 教員からのアドバイス・備考 | 5S(整理・整頓・清潔・清掃・躰)に、積極的に取り組むことも、より充実した実習を行う上で必要なことです。互いに意識的に5S活動しましょう。 | | | | | | |

| | | | | |
|-------------------------------|--|--|-----------------------------|-------------------|
| 科目名 | 農場管理実習I (実習) | 担当教員 | 秋葉 勝矢、鈴木 一広 他 | 実務経験のある教員等による授業科目 |
| 実務経験のある教員等による授業科目(実務経験の概要) | 肥料メーカーにおいて、製造・販売及び利用の実務経験を持つ教員がその実務経験を生かして実施する授業科目である。 | | | |
| 対象科・コース | アグリビジネス科 アグリビジネスコース | 配当年次 | 1年 | 前後期 時間(単位)数 90(2) |
| 科目区分 | 専門分野 作物・園芸実習 | 関連資格等 | 自動刈払機、小型車両建設機械、フォークリフトなど作業系 | |
| 授業のキーワード | 燃油、オイル、播種、覆土、鉢上げ、鉢ずらし、堆肥、施肥、耕耘、畝立て、マルチ張り、支柱立て、ネット、目合、株間、条間、移植、定植、中耕、除草、整枝、誘引、摘葉、摘果、摘花、摘蕾、ホルモン処理、追肥、収穫適期、等級選別、階級選別、PE、PP、出荷箱、入目、量目、PVC、PO、予鈴、加温、保温、遮光、乾燥、キュアリング、法律(PL、JAS、景品等表示、農薬取締、肥料取締 など) | | | |
| 授業概要(目的・ねらい) | この授業は大型特殊自動車免許・小型建設機械・刈払い機の資格を有し、作業機械を取り扱う実務経験のある教員が担当し、交代当番として7日間(うち1日相当は休暇)連続で、園芸農場の管理実習に入り、農場教員が日々行っている実習に向けた準備ともなる作業を行う。この間、通常の講義・実習・実験などは全て出席せず、農場管理に集中することで、終日・連日身体を動かす事、適切に休むことの重要性を学ぶ。 | | | |
| 学生が達成すべき目標(行動目標) | (1)農業生産・機械実習の実施に向けた準備について理解を深める。 (2)現場の管理手法を説明できる。 (3)終日、体を動かすことに慣れる。 (4)連日、体を動かすことに慣れる。 | | | |
| ディプロマポリシーと本科目の関連 | (1)食物の生産から消費まで、実践的な理論を理解し、技術を身につけている。 (2)幅広い視野を持ち、国内外の多くの人と協力して問題を解決できる。 (3)発展し続けてゆく農と食の融合的な高度化に積極的に寄与できる。 | | | |
| 授業計画 | | | | |
| 回 | テーマ | 授業内容 | | |
| 1 | 農場管理 | <p>実習に入る週、時期や天候に合わせて、最も農繁となる部門の管理を行う。 施肥、耕耘、播種、収穫、片付け、ハウス管理など通常の実習で行う農作業を、教員がそばにいないとも、ある程度実施できるようになると共に、疑問や失敗をそのままとせず、早期に確認できる実習である。 具体的な実施計画は、別途、揭示する。 原則、水曜日開始の7日間であり、休憩を含み8時15分～17時までが実習時間である。</p> | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |
| 4 | | | | |
| 5 | | | | |
| 6 | | | | |
| 7 | | | | |
| 8 | | | | |
| 9 | | | | |
| 10 | | | | |
| 11 | | | | |
| 12 | | | | |
| 13 | | | | |
| 14 | | | | |
| 15 | | | | |
| 授業準備(予習・復習)の具体的な内容及び、それに必要な時間 | <p>【予習】 天気予報をしっかりと見るようにしましょう。</p> <p>【復習】 しっかりと体を休め、バランスの良い食事、質の高い睡眠をとるように心掛けましょう。</p> | | | |
| 成績評価 | 方法 | <input type="checkbox"/> 定期試験(%) <input type="checkbox"/> 実技試験(%) <input checked="" type="checkbox"/> 実習・演習評価(30 %) <input type="checkbox"/> 小テスト(%) | | |
| | | <input checked="" type="checkbox"/> 平常点 (40 %) <input checked="" type="checkbox"/> レポート (30 %) <input type="checkbox"/> その他(%) | | |
| | 基準・備考 | 学生便覧 学則、成績考査規程に準拠して評価する。一読すること。 | | |
| 使用教材 | 教科書 | 特に指定しない | | |
| | 参考書等 | | | |
| 教員からのアドバイス・備考 | 教員とマンツーマン実習となることも多く、農業のみならず積極的な質問をするチャンスです。 | | | |

| 科目名 | 農業生産・機械実習2 (実習) | | 担当教員 | 秋葉 勝矢、鈴木 一広 他 | | | 実務経験のある教員等による授業科目 |
|-------------------------------|---|--|--|-----------------------------|---------|---------|-------------------|
| 実務経験のある教員等による授業科目(実務経験の概要) | 肥料メーカーにおいて、製造・販売及び利用の実務経験を持つ教員がその実務経験を生かして実施する授業科目である。 | | | | | | |
| 対象科・コース | アグリビジネス科 園芸・組合、国際農業コース | 配当年次 | 2年 | 前後期 | 時間(単位)数 | 180 (4) | |
| 科目区分 | 専門分野 | 作物・園芸実習 | 関連資格等 | 自動刈払機、小型車両建設機械、フォークリフトなど作業系 | | | |
| 授業のキーワード | 燃油、オイル、播種、覆土、鉢上げ、鉢ずらし、堆肥、施肥、耕耘、畝立て、マルチ張り、支柱立て、ネット、目合、株間、条間、移植、定植、中耕、除草、整枝、誘引、摘葉、摘果、摘花、摘蕾、ホルモン処理、追肥、収穫適期、等級選別、階級選別、PE、PP、出荷箱、入目、量目、PVC、PO、予鈴、加温、保温、遮光、乾燥、キュアリング、法律(PL、JAS、景品等表示、農業取締、肥料取締 など) | | | | | | |
| 授業概要(目的・ねらい) | この授業は大型特殊自動車免許・小型建設機械・刈払い機の資格を有し、作業機械を取り扱う実務経験のある教員が担当し、1年次に引き続き、専門科目で修得する知識を発展させる実習科目でもある。下記に挙げる主たるテーマを天候・時期などにあわせ、水田・野菜(施設、露地、有機、企業)、果樹の計6部門にて平均的に体験実習することによりはたし、農業法人等への就職・就農に足る即戦力、協働力を養う。 | | | | | | |
| 学生が達成すべき目標(行動目標) | (1)水稲、畑作物、果樹、野菜栽培等を実践できる。 (2)職員の指示がなくても、農作業を組むことができる。 (3)安全に農作業を実践できる。 (4)農業生産における課題の解決方法を考えることが出来る。 (5)農業機械の操作が出来る。後輩へ助言・手助けが出来る。 | | | | | | |
| ディプロマポリシーと本科目の関連 | (1)食物の生産から消費まで、実践的な理論を理解し、技術を身につけている。 (2)幅広い視野を持ち、国内外の多くの人と協力して問題を解決できる。 (3)発展し続けてゆく農と食の融合的な高度化に積極的に寄与できる。 | | | | | | |
| 授業計画 | | | | | | | |
| 回 | テーマ | | 授業内容 | | | | |
| 1 | 機械操作 | | 乗用型農業機械(トラクタなど)の取扱いについて実習する。 | | | | |
| 2 | 機械整備 | | 機械油交換、日常メンテナンスなどについて実習する。 | | | | |
| 3 | 肥料の種類と計算、施肥、散布 | | 肥料の種類を知り、施肥量の計算、散布方法など実習する。 | | | | |
| 4 | 播種・育苗管理 | | 播種方法や、播種箱、トレイ等の使い方などを学び、播種後の管理や、苗の管理手法(灌水など)について実習をする。 | | | | |
| 5 | 定植準備・定植(移植) | | 畝立て、マルチ張りなどの定植準備や、苗の移植などを実習する。 | | | | |
| 6 | 栽培管理(野菜) | | 中耕、除草、追肥など、栽培中期の管理作業について実習する。 | | | | |
| 7 | 栽培管理(野菜) | | 整枝、摘葉などについて実習する。 | | | | |
| 8 | 栽培管理(果樹) | | 摘蕾、摘花、摘果、ホルモン処理、房作りなど収穫に値する果実づくりについて実習する。 | | | | |
| 9 | 栽培管理(果樹) | | 多目的防災網の展張、剪定枝片付けなどを通じ、物理的な防除手法を実習する。 | | | | |
| 10 | 栽培管理(水田) | | 播種、田植え、畦畔管理、稲刈り、乾燥調整、籾摺りに至る一連の水田作業について実習する。 | | | | |
| 11 | 栽培管理(水田) | | 冷蔵貯蔵された玄米の精白、小分け、表示など米穀の出荷に係る一連の実習を行う。 | | | | |
| 12 | 農業の使用 | | 希釈、散布時期、場所、回数、散布時の服装、使用後の機械洗浄など、安全に配慮した農業散布方法について学ぶ。 | | | | |
| 13 | 収穫・調整・出荷 | | 出荷規格に準じた収穫手法と個装、並びに出荷に向けた輸送方法などについて実習する。 | | | | |
| 14 | 片付け・整理 | | 残渣、支柱、マルチなどの他、圃場・倉庫の清掃を通じ、GAP的管理を学ぶ。 | | | | |
| 15 | 総合 | | 一連の農作業を通じ、作付計画、営農計画など就職、就農に必要な知識を体験を通じて学ぶ。 | | | | |
| 授業準備(予習・復習)の具体的な内容及び、それに必要な時間 | 【予習】 特に予習は必要としないが、復習をしっかりと行うこと。 【復習】 各回の実習内容でわからないことがあれば、次回の実習までに各担当教員に質問をするなど、早めの解決を心掛けること。 | | | | | | |
| 成績評価 | 方法 | □定期試験(%) □実技試験(%) ■実習・演習評価(30 %) □小テスト(%) ■平常点 (40 %) ■レポート (30 %) □その他(%) | | | | | |
| | 基準・備考 | 学生便覧 学則、成績考査規程に準拠して評価する。一読すること。 | | | | | |
| 使用教材 | 教科書 | 特に指定しない | | | | | |
| | 参考書等 | | | | | | |
| 教員からのアドバイス・備考 | 安全な農作業には、体調管理が不可欠です。また、数名単位で実習を行います。互いの体調を思いやることも、安全確保や省力化につながります。コミュニケーションを大事にしましょう。 | | | | | | |

| | | | | |
|-------------------------------|--|--|-----------------------------|--------------------|
| 科目名 | 農場管理実習2 (実習) | 担当教員 | 秋葉 勝矢、鈴木 一広 他 | 実務経験のある教員等による授業科目 |
| 実務経験のある教員等による授業科目(実務経験の概要) | 肥料メーカーにおいて、製造・販売及び利用の実務経験を持つ教員がその実務経験を生かして実施する授業科目である。 | | | |
| 対象科・コース | アグリビジネス科 園芸・組合コース | 配当年次 | 2年 | 前後期 時間(単位)数 90 (2) |
| 科目区分 | 専門分野 作物・園芸実習 | 関連資格等 | 自動刈払機、小型車両建設機械、フォークリフトなど作業系 | |
| 授業のキーワード | 燃油、オイル、播種、覆土、鉢上げ、鉢ずらし、堆肥、施肥、耕耘、畝立て、マルチ張り、支柱立て、ネット、目合、株間、条間、移植、定植、中耕、除草、整枝、誘引、摘葉、摘果、摘花、摘蕾、ホルモン処理、追肥、収穫適期、等級選別、階級選別、PE、PP、出荷箱、入目、量目、PVC、PO、予冷、加温、保温、遮光、乾燥、キュアリング、法律(PL、JAS、景品等表示、農業取締、肥料取締 など) | | | |
| 授業概要(目的・ねらい) | 1年次に引き続き、交代当番として7日間(うち1日相当は休暇)連続で、園芸農場の管理実習に入り、農場教員が日々行っている実習に向けた準備ともなる作業を行う。この間、通常の講義・実習・実験などは全て出席せず、農場管理に集中することで、終日・連日身体を動かす事、適切に休むことの重要性を学ぶ。 | | | |
| 学生が達成すべき目標(行動目標) | (1)農業生産・機械実習の実施に向けた準備について理解を深める。 (2)現場の管理手法を理解する。 (3)終日、体を動かすことに慣れる。 (4)連日、体を動かすことに慣れる。 | | | |
| ディプロマポリシーと本科目の関連 | (1)食物の生産から消費まで、実践的な理論を理解し、技術を身につけている。 (2)幅広い視野を持ち、国内外の多くの人と協力して問題を解決できる。 (3)発展し続けてゆく農と食の融合的な高度化に積極的に寄与できる。 | | | |
| 授業計画 | | | | |
| 回 | テーマ | 授業内容 | | |
| 1 | 農場管理 | <p>実習に入る時期や天候に合わせて、最も農繁となる部門の管理作業を行う。</p> <p>施肥、耕耘、播種、収穫、片付け、ハウス管理など通常の実習で行う農作業を、教員がそばにいないとも、学生自身が判断してある程度実施できるようになると共に、疑問や失敗をそのまませず、早期に確認できる実習でもある。</p> <p>具体的な実施計画は、別途、掲示する。</p> <p>原則、水曜日開始の7日間であり、休憩を含み8時15分～17時までが実習時間となる。</p> <p>時に、後輩と共に実習を行うため、身につけた農作業を後輩にレクチャーしつつ、教員の確認を求めるなど、将来、農村のリーダーとなるべき、資質を磨くことができる。</p> | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |
| 4 | | | | |
| 5 | | | | |
| 6 | | | | |
| 7 | | | | |
| 8 | | | | |
| 9 | | | | |
| 10 | | | | |
| 11 | | | | |
| 12 | | | | |
| 13 | | | | |
| 14 | | | | |
| 15 | | | | |
| 授業準備(予習・復習)の具体的な内容及び、それに必要な時間 | 【予習】 天気予報をしっかりと見るようにしましょう。 | 【復習】 しっかりと体を休め、バランスの良い食事、質の高い睡眠をとるように心掛けましょう。 | | |
| 成績評価 | 方法 | <input type="checkbox"/> 定期試験(%) <input type="checkbox"/> 実技試験(%) <input checked="" type="checkbox"/> 実習・演習評価(30%) <input type="checkbox"/> 小テスト(%) <input checked="" type="checkbox"/> 平常点(40%) <input checked="" type="checkbox"/> レポート(30%) <input type="checkbox"/> その他(%) | | |
| | 基準・備考 | 学生便覧 学則、成績考査規程に準拠して評価する。一読すること。 | | |
| 使用教材 | 教科書 | 特に指定しない | | |
| | 参考書等 | | | |
| 教員からのアドバイス・備考 | 教員とマンツーマン実習となることも多く、農業のみならず積極的な質問をするチャンスです。 | | | |